

MAIL MAGAZINE

メールマガジン

インドの食文化と懐かしの銘石！

JSC 貿易部ニュース

”暑さ寒さも彼岸まで”を乗り越えて11月初旬まで続いていた猛暑もようやく落ち着いてきた今日この頃。皆様、今月も当メールマガジンをご覧くださいありがとうございます。

さて、わたくし10月に久方ぶりにインド出張に行っていました。

コロナ禍を乗り越え、久しぶりのチャイに心癒される朝のひと時、非常に懐かしいです。現地の方は、朝起きてから一杯、仕事の合間に一杯…と、とにかくチャイが大好きです。



https://www.instagram.com/p/CySDmAJvGLn/?img_index=4

チャイ (chai) は、インドで生まれた紅茶とミルクがベースになった飲み物です。茶葉をミルクで煮出して作ることで独特のコクが生まれ、そこに“これでもか！”と砂糖を加えることで「これで1日分の摂取カロリーをオーバーするのでは？」というほどの濃厚な甘味が育まれます。

ちなみに、インドで、「ティー」と注文すると、紅茶ではなく「チャイ」が出てくる場合がありますが、そもそもヒンディーで「チャイ」とは「お茶」を意味する単語です。また、ご存じのように英語の「ティー」の意味も「お茶」であり、両者は同じものを表しています。

しかも、チャイと一口に言っても加えるものの違いによっていろいろな種類があります。“紅茶+ミルク”に各種香辛料を加えたものを「マサラチャイ」と言いますが、中でも南インドでよく出てくるジンジャー（ショウガ）を加えたものは、インドの洗礼（香辛料+大気汚染）で傷み切った出張者の喉を優しく労わってくれます(笑)



https://www.instagram.com/p/CySDmAJvGLn/?img_index=6

インドの食文化を紹介するときには欠かせないものと言えば、もう一つは「ナン」です。インドでは主食に位置づけられる「ナン」。日本でいうところの「白米」にあたる存在ですが、実は地域によって「ナン」も様々で、南インドでは薄い生地の「チャパティ」が一般的です。調理法によってこれまた色々な種類があるのですが、「ナン」との一番の違いは素材です。「ナン」が精白した小麦を使用するのに対して、「チャパティ」は全粒小麦を使用します。そのため、真っ白なのが「ナン」。茶色い（薄茶色の場合も）のが「チャパティ」と覚えておけばインド料理屋さんで通ぶれます。

発酵の有無という違いもありますが見た目ではわかりづらいです。能書きはいいからどうなの？というとおいしいです。

ただ出張でいくと現地の人「気遣い」を全力で浴びることになります。自分は1~2枚しか食べないのに、「客人に空腹味あわすのは罪だ！」とばかりに、次から次へと出てくる気遣いの”チャパティー、チャパティー、チャパティー”

10日間の出張で赤ちゃんほどの「お土産」をおなかに抱え帰ってくることに…

日本に戻ってからのダイエットが大変です(笑)

さて今月の石のお話！

懐かしの銘石第一弾！「カルサヌール」

聞く人によっては郷愁すら覚えるインド黒の銘石「カルサヌール」

「今の石はすごくいいよ〜！」と弊社のパートナー工場からのお誘いで見に行ってみました。昔の“AS 丁場”の隣です。



https://www.instagram.com/p/CzAmJH_P1Is/?img_index=5



https://www.instagram.com/p/CzAmJH_P1Is/?img_index=2

2～3 立米（1 ブロックが 70～100 切）の大きな原石もそこそこの数がありました。
長尺物や大きい角周りも対応可能です。



工場には新しい原石が続々到着！



すでに当社のインド製品をご利用いただいている石材店様も、まだ使ったことのないよ
という石材店様も”日本石材センターのインド加工”をドンドンご用命いただけますよう
どうぞよろしくお願いたします。

懐かしの銘石第二弾！「カラハリ」

インドの石匠たちのたゆまぬ努力で黎明期からその名を刻み続けるインドグレーの銘石「カラハリ」

最盛期には 20 丁場を越える無数の丁場群が形成されていました。今は現地の建材需要が主ですが、弊社のパートナーは今も変わらず最上級の日本向け品質を守り続けてくれています。



こちらも平均で2〜3立米（1ブロックが70〜100切）の良質の原石です。



世代は変わりましたが、当時の技術を受け継いだ職人たちが品質を守り続けています！



日本石材センターでは、良質な原石を厳選！
中国のパートナー工場に継続して送っています。
カラハリの発注をお考えの際は、是非、日本石材センターにご用命いただければ幸いです。

懐かしの銘石第三弾！「Taminのクンナム」

ほぼすべての本クンナム丁場が政府の環境規制で停止している現在。
政府系の企業である Tamin（タミン）の丁場だけが稼働しています。

正真正銘の「本クンナム」なのですが、少しだけ色が薄く、TVKと同じくらいかなーという
感じです。こちらもインドのパートナー工場に原石ございますので、昔の「TVK」が
好きな方、多少薄くても粘りがあって頑強・実績のある「本クンナム」をお求めの方は
是非お問い合わせのほどよろしく願いいたします。



ちなみに、「Taminの本クンナム」の色・目合いはこんな感じです！



では今月号も最後までご覧いただきありがとうございます。
どんどん寒くなってまいりますのでどうぞご自愛くださいませ。

2023/12/01